

平成 23 年 7 月 27 日

燃料油高騰の運賃転嫁状況アンケート調査結果について  
(平成 23 年 4 月現在)

日本内航海運組合総連合会  
運賃・用船料委員会

## I. アンケート実施概要

アンケート実施期間 平成 23 年 5 月 23 日～平成 23 年 7 月 8 日

(前回調査) 平成 22 年 11 月 15 日～平成 23 年 1 月 6 日

対象事業者数：200 事業者 (内航総連合会調査による元請<sup>ホ</sup>メーカー 202 社中上位 200 社)

回答事業者数：113 事業者 (前回調査 121 事業者)

有効回答率：57% (前回調査 61%)

捕捉率：年間輸送量ベース 86% (前回調査 87%)

(回答事業者の平成 22 年度年間輸送量 (342,401 千 t,kl)

÷22 年度内航船全輸送量 (399,891 千 t,kl)：内航総連合会調査)

：年間消費量ベース 77% (前回調査 81%)

(回答事業者の平成 22 年度年間燃料消費量 (1,726,477kl)

÷\*21 年度内航輸送船舶統計年報による年間消費量 (2,256,077kl)

\*内航輸送船舶統計年報は現在再集計中により公表が遅れているため、H21 年度のデータを用いている。

## II. 調査結果の概要

### (1) 全体調査

① 平成 17 年 3 月末 (A 重油 40,900 円/KL C 重油 30,800 円/KL) と平成 23 年 3 月末 (A 重油 68,900 円/KL C 重油 56,350 円/KL) との価格差 A 重油 28,000 円/KL C 重油 25,550 円/KL の荷主への転嫁率は、一般貨物船鋼材以外 (+15%)、一般貨物船鋼材 (+15%)、ケミカル (+7%)、自動車 (+3%)、セメント (+2%) の改善が見られたものの、ほか 4 品目が前回調査を下回った。全品目の平均は 68%となり、前回調査時を 2%下回る結果となった。

② 転嫁率が 20%未満の該当事業者は、31 事業者で回答事業者の約 3 割強を占めており、前回調査より増えている。

0%の事業者についても前回と同様の 22 社 (19%) となり、燃料油の急激な高騰状況の中にあって、価格転嫁がなされていない現状について懸念される。

### (2) 品目別調査

① 転嫁率の高い品目は、コスト保証方式が定着しているセメント(100%)、BS 方式の割合が高い石灰石(93%)となっている。

② 転嫁率の低い品目は、砂・砂利 (0%) となっている。また、前回調査より改善したもの一般貨物船の鋼材以外では (49%) となり、他の品目より低い結果となった。件数としては少ないが、その他の品目についても (28%) となっている。

- ③ 転嫁方法については、運賃値上げ方式（10%→8%）、BS方式（58%→56%）、コスト保証方式（32%→36%）となった。
- ④ 満足度としては、現状の転嫁状況について該当件数の40%が不満となっており、前回調査より2%増加した。これは、ケミカルの不満度が前回よりも増加したことによる。満足と回答した件数は、（53%→53%）と前回調査と変わらない。
- ⑤ 転嫁率0%の件数としては、一般貨物船鋼材以外（28件→26件）、石油（4件→7件）、一般貨物船鋼材（7件→5件）、特殊タンク（7件→5件）、石灰石（1件→4件）となっている。
- なお、依然として砂・砂利は（6件→4件\*件数は減少したものの全て転嫁なしの状態である）、改善に至っていない。

### III. 調査結果

#### 1. 燃料油の年間消費量について

調査時期	A重油		C重油		(単位:KL)
	消費量	割合	消費量	割合	計
平成22年10月	512,594	28%	1,328,516	72%	1,841,110
平成23年4月	497,305	29%	1,229,172	71%	1,726,477

今回の調査で有効回答のあった内航主要オペレーター113社(全輸送量の86%)の年間消費量は、約173万KLとなり、平成21年度内航船舶輸送統計年報による年間消費量約226万KLの77%となった。

#### 2. 燃料油価格値上がり分の転嫁状況

転嫁割合	(単位:KL、%)											
	平成23年4月調査						平成22年10月調査					
	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合
0%	55,257	3%	0	0%	22社	19%	36,720	2%	0	0%	22社	18%
1%~10%未満	24,008	1%	1,551	0%	6社	5%	32,484	2%	1,677	0%	6社	5%
10~20%未満	60,487	4%	6,049	1%	3社	3%	2,049	0%	205	0%	1社	1%
20~30%未満	102,461	6%	26,989	2%	4社	4%	33,129	2%	8,205	1%	4社	3%
30~40%未満	14,450	1%	4,995	0%	6社	5%	46,472	3%	15,270	1%	7社	6%
40~50%未満	146,774	9%	67,038	6%	5社	4%	40,360	2%	17,691	1%	9社	7%
50~60%未満	190,244	11%	97,418	8%	11社	10%	151,339	8%	78,732	6%	15社	12%
60~70%未満	54,338	3%	34,324	3%	6社	5%	397,672	22%	261,570	20%	13社	11%
70~80%未満	405,767	24%	302,356	26%	10社	9%	622,433	34%	462,001	36%	10社	8%
80~90%未満	236,810	14%	201,543	17%	11社	10%	160,475	9%	140,690	11%	7社	6%
90%以上	435,881	25%	425,764	36%	29社	26%	318,737	17%	311,885	24%	27社	22%
計	1,726,477	100%	1,168,026	100%	113社	100%	1,841,870	100%	1,297,925	100%	121社	100%
	転嫁率68%						転嫁率70%					
	*小数点以下四捨五入のため、%の合計が100%にならない。											

### 3. 品目別転嫁状況

(1)品目別に転嫁の程度・転嫁方法・燃料消費量別に集計した結果は、つぎのとおりである。但し、品目別の回答は、1事業者が複数回答するため回答件数が回答事業者より多くなる。

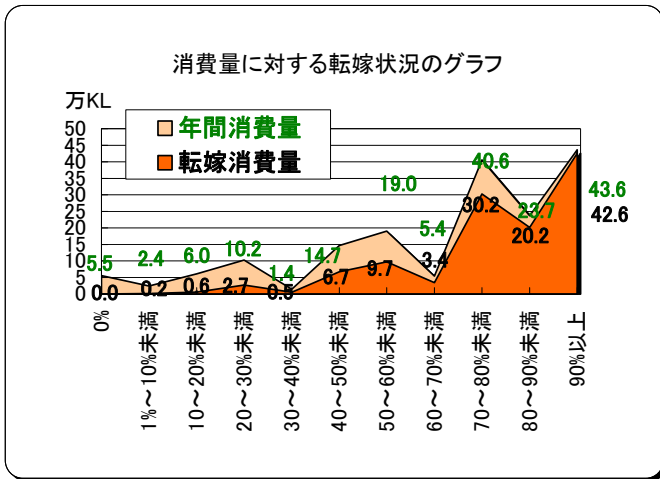
#### 全体

平成23年4月										平成22年10月							
No.	品目名	燃料消費量		転嫁量及び転嫁率			転嫁量内訳(%)			燃料消費量		転嫁量及び転嫁率			転嫁量内訳(%)		
		該当件数	消費量	該当件数	転嫁量	消費量に対する転嫁率(量)	①運賃値上げ	②ハンカーサーチャージ	③コスト保証	該当件数	消費量	該当件数	転嫁量	消費量に対する転嫁率(量)	①運賃値上げ	②ハンカーサーチャージ	③コスト保証
1	RORO・コンテナ船貨物	16	470,473	15	270,164	57%	5%	69%	26%	18	494,488	16	346,328	70%	19%	60%	20%
2	一般貨物船鋼材以外	66	147,299	40	71,952	49%	28%	45%	27%	73	171,351	45	57,739	34%	38%	41%	21%
3	一般貨物船鋼材	21	156,130	16	138,434	89%	4%	82%	14%	29	170,392	22	125,287	74%	4%	91%	5%
4	ケミカル	23	82,384	21	58,324	71%	19%	36%	45%	31	97,186	25	61,997	64%	19%	60%	22%
5	石油	35	502,310	28	338,759	67%	0%	48%	52%	32	550,740	28	406,516	74%	1%	46%	53%
6	特殊タンク	32	97,019	27	73,225	75%	2%	60%	38%	31	101,073	24	80,551	80%	1%	70%	29%
7	砂・砂利	4	16,213	0	0	0%	0%	0%	0%	6	3,345	0	0	0%	0%	0%	0%
8	石灰石	19	62,214	15	58,044	93%	0%	76%	24%	17	59,012	16	54,887	93%	6%	77%	18%
9	セメント	17	87,810	17	87,810	100%	0%	20%	80%	18	110,170	17	108,234	98%	5%	40%	55%
10	自動車	7	90,165	7	62,627	69%	45%	55%	0%	6	74,711	6	48,974	66%	21%	79%	0%
11	その他	4	14,460	3	4,035	28%	0%	62%	38%	9	9,402	7	7,413	79%	7%	93%	0%
合計		244	1,726,477	189	1,168,026	68%	8%	56%	36%	270	1,841,870	206	1,297,925	70%	10%	58%	32%

①転嫁率が前回調査を上回った品目としては、一般貨物船鋼材以外(34%→49%)、一般貨物船鋼材(74%→89%)、ケミカル(64%→71%)、自動車(66%→69%)、セメント(98%→100%)の5品目となっている。

②前回調査を下回った品目としては、その他(79%→28%)、RORO・コンテナ貨物(70%→57%)、石油(74%→67%)、特殊タンク(80%→75%)の4品目となっている。

③前回と同じ品目としては、砂・砂利(0%→0%)、石灰石(93%→93%)の2品目となっている。



転嫁消費量は全体として約 117 万 KL となり、転嫁率は前回調査より 2%減の 68% となった。

転嫁率が 0%の事業者は前回と変わらず 22 社となっている。

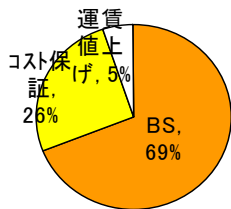
転嫁率の 20%未満について事業者数は前回調査より増えて、31 社となっている。

一方で、80%以上転嫁された事業者数が増加した。(34 社→40 社)

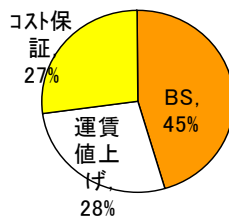
未転嫁の燃料油は全体の約 1/3 となり約 56 万 KL にのぼる。

(2) 品目別転嫁方法の傾向について

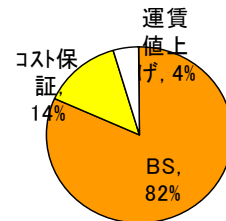
RORO・コンテナ船貨物



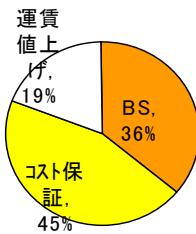
一般貨物船鋼材以外



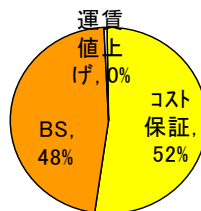
一般貨物船鋼材



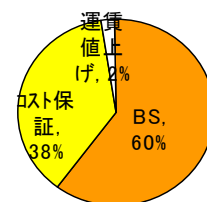
ケミカル



石油



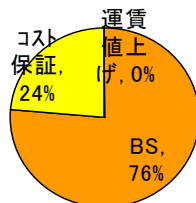
特殊タンク



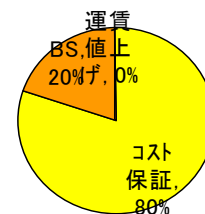
砂・砂利



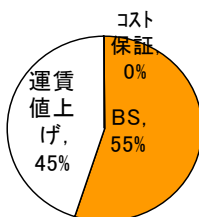
石灰石



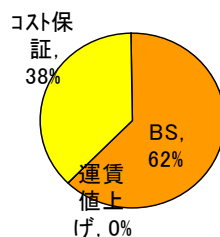
セメント



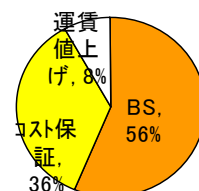
自動車



その他



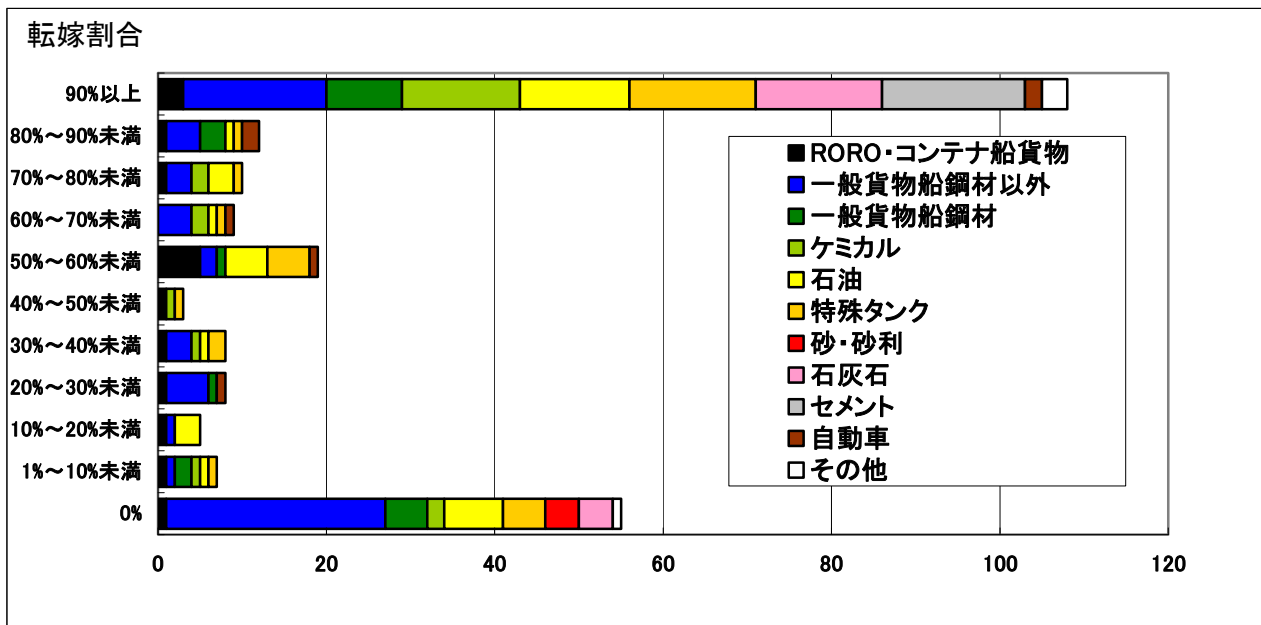
全体



### (3) 品目別転嫁割合の該当件数について

品目別転嫁率傾向

品目/転嫁割合	0%	1%~10% 未満	10%~20% 未満	20%~30% 未満	30%~40% 未満	40%~50% 未満	50%~60% 未満	60%~70% 未満	70%~80% 未満	80%~90% 未満	90%以上	計
RORO・コンテナ船貨物	1	1	1	1	1	1	5	0	1	1	3	16
一般貨物船鋼材以外	26	1	1	5	3	0	2	4	3	4	17	66
一般貨物船鋼材	5	2	0	1	0	0	1	0	0	3	9	21
ケミカル	2	1	0	0	1	1	0	2	2	0	14	23
石油	7	1	3	0	1	0	5	1	3	1	13	35
特殊タンク	5	1	0	0	2	1	5	1	1	1	15	32
砂・砂利	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
石灰石	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	19
セメント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	17
自動車	0	0	0	1	0	0	1	1	0	2	2	7
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4
計	55	7	5	8	8	3	19	9	10	12	108	244



#### 4. 運賃への転嫁の現状に対する事業者の各品目別満足度について

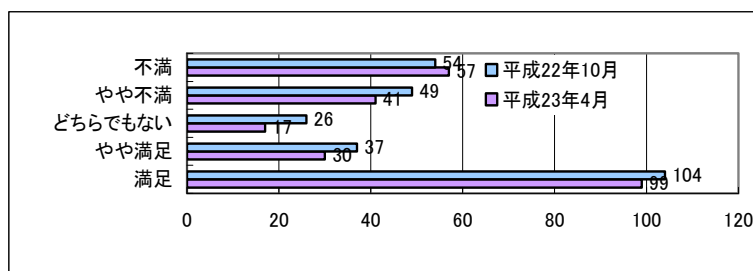
##### (1) 全体

満足・やや満足の割合は前回調査と同じ結果となった。(53%→53%)

不満・やや不満は前回調査より 2%増加した。(38%→40%)

現状	平成23年4月		平成22年10月	
	該当数	%	該当数	%
満足	99	41%	104	39%
やや満足	30	12%	37	14%
どちらでもない	17	7%	26	10%
やや不満	41	17%	49	18%
不満	57	23%	54	20%
合計	244	100%	270	100%

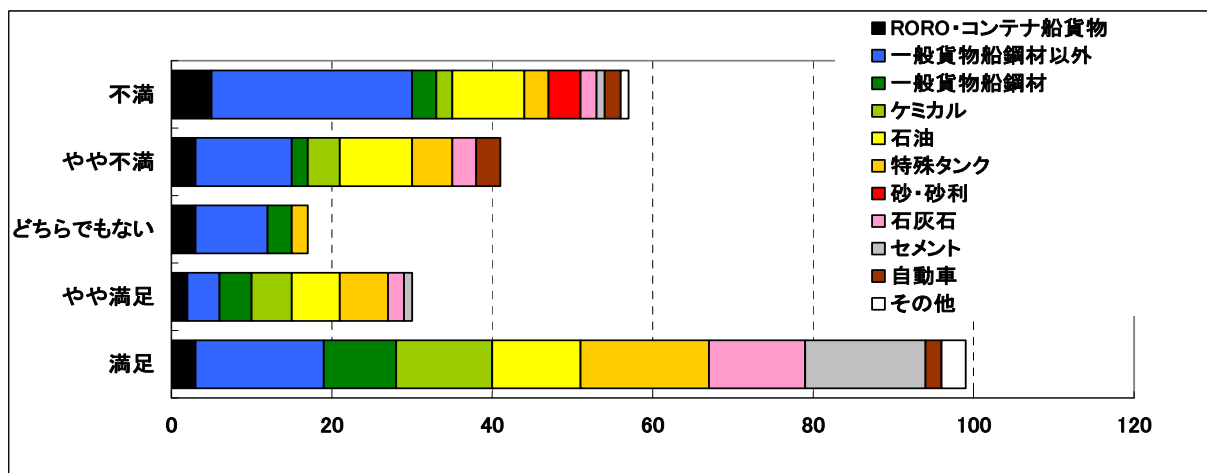
\*%の合計が必ずしも 100%にならない場合がある。



##### (2) 品目別満足度の割合について

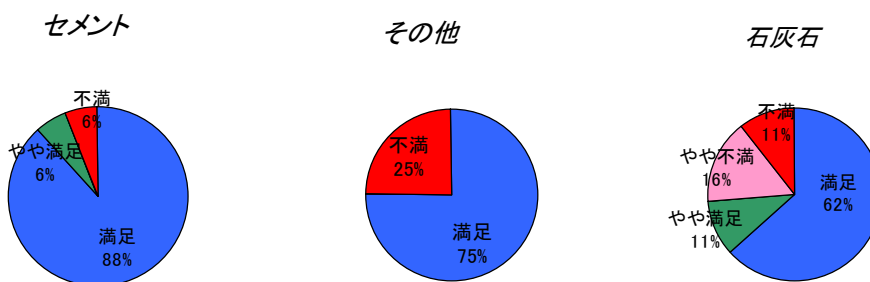
品目	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
RORO・コンテナ船貨物	3	2	3	3	5
一般貨物船鋼材以外	16	4	9	12	25
一般貨物船鋼材	9	4	3	2	3
ケミカル	12	5	0	4	2
石油	11	6	0	9	9
特殊タンク	16	6	2	5	3
砂・砂利	0	0	0	0	4
石灰石	12	2	0	3	2
セメント	15	1	0	0	1
自動車	2	0	0	3	2
その他	3	0	0	0	1
計	99	30	17	41	57
(%)	41%	12%	7%	17%	23%

\* %の合計が必ずしも 100%にならない場合がある。



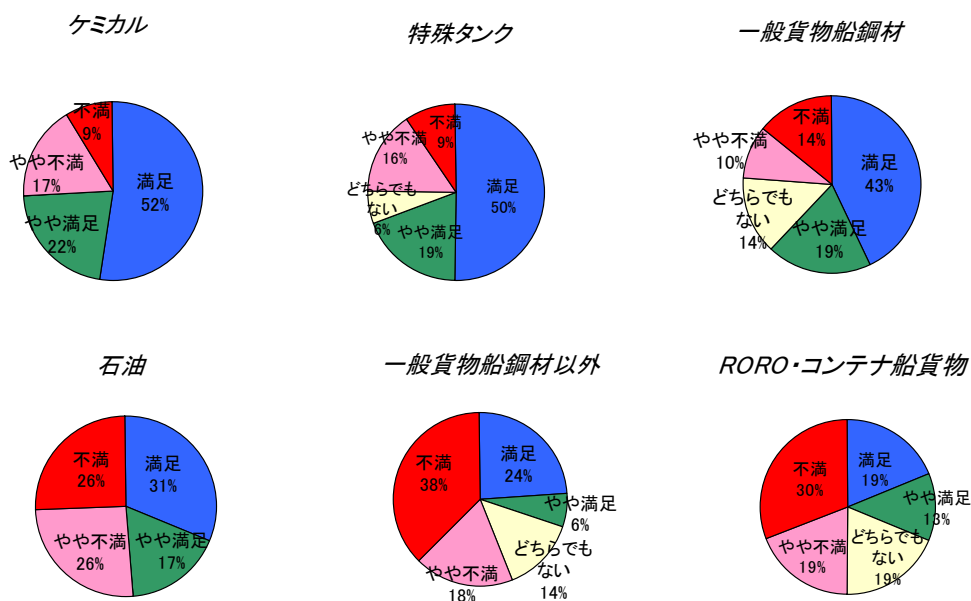
満足度を品目別に見ると次のとおりである。

**A. 満足度の高い品目（セメント、その他、石灰石）**



セメントの転嫁率は 100%、石灰石も 93%となり満足度は高くなっている。その他の品目については、転嫁率が 28%となっているが、回答の絶対数が少ないため満足度が上がった。

**B. 満足度にバラツキがある品目（ケミカル、特殊タンク、一般貨物船鋼材、石油、一般貨物船鋼材以外、RORO・コンテナ船貨物）**



ケミカルの転嫁方法については、今回はコスト保証方式によるものが増えた。(22%→45%) 転嫁率は (64%→71%) と改善されたことで前回より満足度は上がった。

特殊タンクの転嫁方法についても、ケミカル同様にコスト保証方式によるものが (29%→38%) と上がった。転嫁率は (80%→75%) と前回より下がったものの、満足度は上がった。

一般貨物船鋼材の転嫁方法については、運賃値上げによるものが前回と同様 (4%→4%)、BS 方式によるものが (91%→82%)、コスト保証方式によるものが (5%→14%) となり、転嫁率は(74%→89%)と改善された。転嫁率・満足度共に上がったものの不満度を訴える回答が全体の 1/4 を占める。

石油の転嫁方法については、今回コスト保証方式と BS 方式による転嫁となった。運賃値上げ

によるものは(1%→0%)となった。転嫁率は(74%→67%)と下がったため、不満度は増えた。

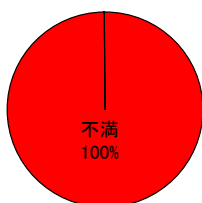
一般貨物船鋼材以外の品目については、転嫁率が(34%→49%)と上がった。コスト保証によるものが(21%→27%)と増えたものの、一方で転嫁率が0%のものが(28件→26件)となっており、不満度は半数を超えている。

RORO・コンテナ船貨物の転嫁方法について、運賃値上げによるものが(19%→5%)と大幅に減少し、BS方式によるものが(60%→69%)、コスト保証によるものが(20%→26%)と増えた。転嫁率については(70%→57%)と下がったものの、満足度は上がった。

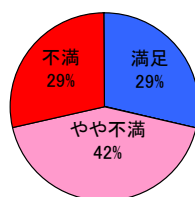
### C.満足度の低い品目

(砂・砂利、自動車)

砂・砂利



自動車



砂・砂利については、前回同様に転嫁率が0%と厳しい状況が改善されず、全ての回答者が不満を訴えている。

自動車についても前回同様にコスト保証が0%となっている。BS方式は(79%→55%)と下がった。運賃値上げによるものが(21%→45%)と増えた。転嫁率が(66%→69%)と上がったものの、不満度は前回よりも増えている。

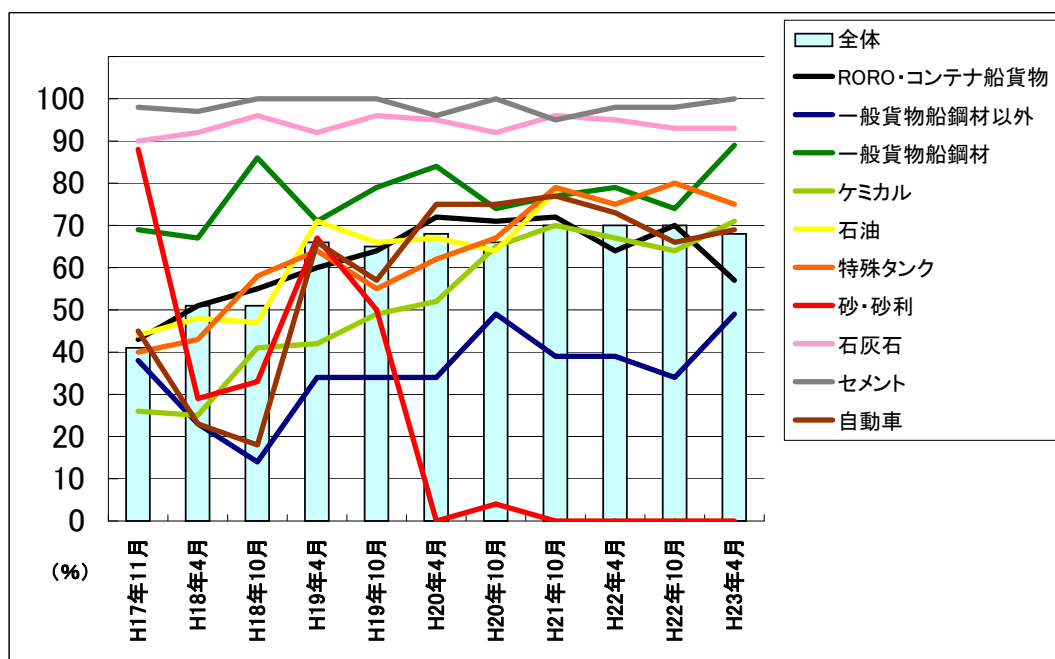


No.	意見
1	H22年度は燃料油価格が上がりましたが、荷主の抵抗があり、収受率(転嫁率)が下がりました。また、原発及び震災の影響で消費量が増量しました。
2	リーマンショック時のF.O高騰時にはさすがに値上げを要請し、一部は認められたが大手企業以外は決して満足いくものではない。その後は逆に値下げ要請を受け、今日に至っている。17年のF.O価格から比較するのは無理がある。
3	先方に貸し出し中のため、先方の取引内容に準じる。価格の転嫁は困難である。
4	バンカーサーチャージとして荷主へのコスト転嫁率100%とすることは非常に困難である。船会社として燃料費が増加するにつれ、コスト増となることは今後経営を大きく圧迫しかねない。営業努力でカバーしきれないというのが実情です。
5	コスト保証の為、基本的には転嫁が出来ているが購入と運賃上げのレス幅の差が広がりがつつある。(マイナス方向)
6	バンカーサーチャージで3ヶ月に一度請求できるシステムになっている。
7	市況悪化、荷主の物流合理化、石油需要の減退(儉約志向等)が原因で輸送量減少。運賃の修復を望む。
8	燃料油価格上昇分を運賃へ転嫁すると受注が困難になるため、価格の転嫁は難しい。船舶固定費を削減しているのが現状。

## 転嫁率の推移 (H17年11月～H23年4月)

(単位: %)

品目	H17年11月	H18年4月	H18年10月	H19年4月	H19年10月	H20年4月	H20年10月	H21年10月	H22年4月	H22年10月	H23年4月
RORO・コンテナ船貨物	43	51	55	60	64	72	71	72	64	70	57
一般貨物船鋼材以外	38	23	14	34	34	34	49	39	39	34	49
一般貨物船鋼材	69	67	86	71	79	84	74	77	79	74	89
ケミカル	26	25	41	42	49	52	65	70	67	64	71
石油	44	48	47	71	66	67	64	78	68	74	67
特殊タンク	40	43	58	64	55	62	67	79	75	80	75
砂・砂利	88	29	33	67	50	0	4	0	0	0	0
石灰石	90	92	96	92	96	95	92	96	95	93	93
セメント	98	97	100	100	100	96	100	95	98	98	100
自動車	45	23	18	66	57	75	75	77	73	66	69
全体	41	51	51	66	65	68	66	70	70	70	68



砂・砂利については、転嫁率は改善されておらず、依然として厳しい状況が続いている。

今回改善された品目もあったが、RORO・コンテナ船貨物及び特殊タンクなど前回調査より転嫁率が下がったものがあり、全体の転嫁率を押し下げる原因となっており、さらなる改善に向けた活動が必要である。